

# 公益財団法人大倉精神文化研究所 令和5年度事業報告書

公益財団法人大倉精神文化研究所(以下「研究所」という。)は、令和5年度(2023)に「心豊かな国民生活の実現」に資するという目的を実現すべく、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の3つの柱からなる「令和5年度事業計画」を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

令和5年度は、デジタルアーカイブ(貴重資料の画像閲覧サービス)における公開資料の充実に向けた諸事業に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、公開講演会や展示会を積極的に開催し、他機関との連携事業を広く行いました。

## Ⅰ 精神文化の研究及びその成果の普及

令和5年度も、(1)実用の学、(2)東西文化融合、(3)創立者及び研究所関連資料の三つの観点から精神文化の研究を進めるとともに、講演会や展示会の開催、印刷物の編集及び発行、電子情報の発信等を通して成果の普及に努めました。

### (Ⅰ) 実用の学の研究及びその成果の普及

研究所の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたいと考え、研究所を創立しました。

今日、海外企業をモデルに、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献が行われており、江戸時代には石門心学に代表される町人道德も形成されていました。

そこで、令和5年度は「世のために田を耕す―実業家の教育・福祉活動―」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景について研究を進めました。

#### 【大倉山講演会】

研究成果の一部は、横浜市大倉山記念館の指定管理者との共催事業として開催した大倉山講演会で公開するとともに(表-1「大倉山講演会」参照)、『大倉山論集』第70輯の特集にて発表しました(後掲、4頁「1(4)ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行)。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第99回	4月15日	「親切第一」を掲げた企業家、星一 －星製菓株式会社における教育事業－	安士昌一郎	27人
第100回	5月20日	黒澤貞次郎 －通信事業と理想の田園都市「吾等が村」の実現－	岡茂光	51人
第101回	6月17日	土光敏夫の社会貢献活動	兼田麗子	62人
第102回	3月16日	日本のロータリークラブ創設者 米山梅吉もの がたり－奉仕の心で社会を拓く－	柴崎由紀	51人

## (2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者の大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当研究所を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで令和5年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。

### 【公開講演会】

研究成果の一環として、公開講演会を2回開催しました(表-2「公開講演会」参照)。

<表-2「公開講演会」>

■共催：愛知大学 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第18回	7月1日	日本にも迫る食糧危機 －中国・ウクライナ・人口減少－ ～迫りくる日本有事、その時食料はどうなるのか？～	高橋五郎	35人

■共催：岡倉天心市民研究会 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第9回	11月25日	岡倉天心とインド	外川昌彦	55人

## (3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至

る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。また、令和4年度にデジタルアーカイブの環境を整備し、ホームページを改訂したことで、所蔵する原資料のデジタル化画像や音声、映像をインターネットでより多く公開することが可能となりました。

そこで令和5年度は、以下のような事業を進めました。

#### **ア 研究所沿革史資料の調査・整理**

研究所には、設立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡・葉書が大量に現存しており、これらを研究所沿革史資料(以下「沿革史資料」という。)としてまとめて管理しています。これらの調査・整理及び登録作業を引き続き実施しました(別紙、「附属明細書」1頁参照)。

令和5年度は、大倉精神文化研究所附属図書館の書庫にある未整理資料のうち、特に大倉邦彦旧蔵雑誌の調査・整理を行いました(第一期3年計画の2年目)。

#### **イ 研究所沿革史資料のデジタル化**

沿革史資料には様々な形態の資料があり、また外部機関よりの閲覧利用や借用依頼等も増えています。そこで原資料の保存と利用者の利便性を高める観点から、各資料のデジタル化作業を進めました。また、デジタルアーカイブの公開に向けて、データ形式を整える作業等も実施しました(後掲、5頁「1(4)ウ ①デジタルアーカイブ公開の充実」参照)。

令和5年度は、特に、所蔵する写真アルバムのうち、大倉邦彦による大正15年の欧州視察に係るアルバムのデジタル化作業(約400枚)を進めました。

#### **ウ アナログ音源のデジタル化事業**

研究所は、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、これらの経年劣化は著しく、また再生機器も入手し難くなりつつあります。

令和5年度は、SPレコード86枚をデジタル化し、これにより大倉邦彦肉声のラジオ放送のデジタル化は完了しました。

#### **エ 研究所沿革史資料目録のOPAC公開**

整理済の沿革史資料は約130,000点となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。そこで平成30年度(2018)より細目録を採り、目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」用のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めています。

令和5年度は、新たに352点の書誌データを公開しました(後掲、9頁「3(3)ア ③「研究所沿革史資料」の書誌データのOPAC公開」参照)。

#### **オ 資料展の開催**

資料調査や研究成果公開の一環として、次の表の通り、研究所資料展2回、特別資料展6回開催しました。

<表-3「資料展」>

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第20回特別資料展 港北図書館	3月23日～4月20日	第33代横綱、武蔵山展 日吉から大相撲の頂点へ	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第21回特別資料展 横浜アリーナ	4月22日	第33代横綱、武蔵山展 日吉から大相撲の頂点へ	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第47回研究所資料展 横浜市大倉山記念館ギャラリー	8月2日～8月27日	地図で見る！知る！楽しむ！ わがまち港北	617人
第22回特別資料展 神崎市神埼情報館	9月2日～10月31日	世のために田を耕す ～郷土の先人、大倉邦彦の社会貢献～	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第23回特別資料展 港北図書館	10月5日～30日	よむ・しる・たのしむ 地図の世界	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第48回研究所資料展 横浜市大倉山記念館第6集会室	11月2日～5日	特別企画「城～小机城と篠原城」 展示と上映会	309人
第24回特別資料展 横浜アリーナ	11月25日	東急の沿線案内 ～港北区の歴史をもっと知ろう～	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第25回特別資料展 港北図書館	3月8日～4月17日	横綱武蔵山と昭和初期の相撲資料展	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

#### (4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう、精神文化及び地域における歴史・文化の研究成果を広く国民全体に公開普及する手段として、印刷物や電子情報を提供しています。

#### ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

3月に、『大倉山論集』第70輯(A5判 361頁 500部)を発行しました。

<表-4『大倉山論集』第70輯 目次>

特集 世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動—	
特集にあたって	公益財団法人 大倉精神文化研究所
「親切第一」を掲げた企業家、星一 一星製薬株式会社における教育事業—	安土 昌一郎
黒澤貞次郎の社会奉仕 —通信事業と究極の田園都市「吾等が村」—	岡 茂光
土光敏夫と社会文化貢献活動 —教育に焦点を当てて—	兼田 麗子
論説	
日蓮と日蓮主義	丹治 正弘
覚書	
徳川家康を天正十九年に「藤原家康」と記す史料の紹介	小林 輝久彦
資料紹介	
史料翻刻 木下韃村日記(十)—④	木下韃村日記研究会
翻刻 大倉精神文化研究所「日誌」(大正一四年～昭和九年)[上]	公益財団法人 大倉精神文化研究所

プラフモ・サマージ関係文献紹介(附 関係文献目録)	臼田 雅之
受贈図書一覧	
所報	

## イ 各種リーフレット等の編集・発行

研究所の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、研究所の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行しました。

## ウ 電子情報の発信

近年、インターネットを通じた電子情報の公開が進んでおり、その重要性がより増しています。そこで研究所でも、所蔵資料の更なる活用、参照を促すべく、所蔵資料のデジタル化作業(前掲、3頁「1(3)イ 研究所沿革史資料のデジタル化」「1(3)ウ アナログ音源のデジタル化事業」と並行して、インターネットでの公開を推進しています。

令和5年度は、特に以下に掲げる2つの事業の実施に重点を置きました。

### ① デジタルアーカイブ公開の充実

令和5年度は、(1)デジタル化したアナログ音源6点と、(2)所蔵する大倉邦彦の揮毫106点のデジタルデータを公開しました。

### ② 『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

研究所の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学研究の成果として、令和4年度に『大倉山論集』第69輯を刊行しました。これを誰でも閲覧できるように、5月にPDFで公開しました。

## 2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

令和5年度も、港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及に努めました。

### (1) 他機関との連携事業

株式会社横浜アリーナ、横浜市港北区役所地域振興課、横浜市大倉山記念館指定管理者等の8団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました。

<表-5 共催等の事業>

時期	主催団体・機関名	連携事業
4月22日	株式会社横浜アリーナ等	～相鉄・東急新横浜線開業記念～令和五年春巡業「大相撲横浜アリーナ場所」に協力
9月9日	港北芸術祭実行委員会 横浜市港北区役所	港北芸術祭 五大路子朗読劇「真昼の夕焼け」に協力
9月10日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデー」を共催

10月9日	スターリンクス エー・ティー	映像劇「新・大途とハル」に協力
10月22日	港北図書館友の会	サロン「地図と文学」を共催
11月1日～5日	大倉山秋の芸術祭実行委員会	「第39回大倉山秋の芸術祭」を後援
11月25日	株式会社横浜アリーナ	「2023秋のヨコアリくんまつり」に協力
2月20日～24日	よこはま縁むすび講中	「よこはま縁むすび講中 ポスター展」に参加

## (2) 講師派遣

横浜市港北図書館等の12団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました。

<表-6 講師派遣>

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
4月9日	横浜市港北図書館	第33代横綱武蔵山 日吉から大相撲の頂点へ(平井誠二)
4月21日	港北朝食会	港北地域の文化の特徴(平井誠二)
4月22日	鶴見川舟運復活プロジェクト	昭和10年、鶴見川沿いの釣り場散策(平井誠二)
6月29日	横浜市立新羽小学校	新羽の魅力を探ろう！(平井誠二)
6月27日	横浜市立太尾小学校	大倉山と梅の歴史について(林宏美)
9月9日	港北芸術祭実行委員会 港北区役所	港北芸術祭 五大路子朗読劇「真昼の夕焼け」 第2部:トークショー「伝えたい 命の大切さを」パネリスト(平井誠二)
9月25日	岸根町町内会	アニメ「小机の重政」を楽しむために(平井誠二)
10月13日	横浜市立新羽小学校	新羽の魅力を探ろう！(平井誠二)
10月25日	株式会社ブレインテック	「ブレインテック ユーザー研究会2023」 ゲストスピーカー(星原大輔)
11月22日	横浜市港北図書館	歴史散歩 わがまち日吉を歩く(林宏美)
11月23日	鶴見川舟運復活プロジェクト	鶴見川と新横浜公園の歴史講話(平井誠二)
1月18日	横浜市立新吉田小学校	鶴見川について(平井誠二)
1月20日	鶴見川舟運復活プロジェクト	神奈川宿の資料と新羽屋(平井誠二)
2月20日	港北区役所地域振興課 港北区区民活動支援センター	港北区の疑問に答えます！-港北区のことをもっと知ろう-(平井誠二)
3月1日	横浜市立新羽小学校	新羽の魅力発表会(平井誠二)

### (3) 依頼原稿の執筆

ASA大倉山等の2団体・機関発行の情報紙や学術雑誌等へ18本の原稿を執筆し、掲載されました。(別紙、「附属明細書」1-2頁参照)

### (4) 調査協力・記事掲載

調査協力した研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事や研究所主催イベントの紹介が、『新横浜新聞』等の14新聞・雑誌・ウェブサイトで35記事が掲載され、また調査協力した番組の放送・公開が13件ありました。(別紙、「附属明細書」2-3頁参照)

### (5) 資料の寄贈

15団体・個人から、以下の通り、研究所や大倉山記念館、周辺地域に係る資料の寄贈を受けました。

- ① 4月4日、5月20日、7月8日、8月12日、9月8日、11月14日、1月6日、3月2日、寺田様より研究所及び地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ② 6月21日、高橋様より綱島地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ③ 6月27日、臼田様よりブラフモ・サマージ関係文献の寄贈を受けました。
- ④ 6月28日、7月11日、9月13日、中島様より研究所沿革史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑤ 7月22日、内山様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑥ 7月22日、28日、11月28日、長谷川様より新羽地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑦ 7月28日、川向南耕地地区土地区画整理組合様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑧ 8月9日、鈴木様より研究所沿革史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑨ 8月12日、小股様より新吉田地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑩ 8月31日、内田様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑪ 10月25日、有森様より大倉邦彦に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑫ 12月22日、尚花愛児園様より綱島地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑬ 12月23日、武田様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑭ 2月22日、岩村様より研究所沿革史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑮ 3月13日、磯貝様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。

### (6) 見学案内

団体・個人(17件、延べ134名)からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を実施しました。(別紙、「附属明細書」3-4頁参照)

## 3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

附属図書館は、創立者大倉邦彦が目指した東洋と西洋の精神文化の融合を追及する専門図書館

として、令和5年度も、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館の実現に努めました。

## (1) 図書館の公開

当館は、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約11万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週5日、午前9時30分から午後4時30分まで無料で公開しています。大倉山記念館や地域に根差した催事に合わせ4回の臨時開館も実施しました(後掲、12頁「3(5)カ 外部機関との連携」、別紙「附属明細書」4頁参照)。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、消毒・換気等の基本的感染対策のみを継続し、通常通り開館しました。また、閉架図書閲覧冊数・レファレンス件数・蔵書検索アクセス数の数値が前年度より上回った他、館内見学は昨年度の2倍以上となる44回344人の参加がありました(前掲、7頁「2(6) 見学案内」と一部重複)。(表-7「図書館利用の実績」参照)。

<表-7 図書館利用の実績>

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
開館日数	247日	248日	243日
入館者数	4,765人	5,111人	4,622人
貸出カード登録者数(累計2,546人)	188人	201人	236人
図書貸出数	4,656冊	5,745冊	5,870冊
閉架図書閲覧者数	88人	90人	71人
閉架図書閲覧冊数	439冊	219冊	170冊
複写枚数	597枚	678枚	2,174枚
レファレンス件数	119件	57件	25件
蔵書検索アクセス数	2,871,737件	1,494,802件	1,430,542件
館内見学	44回/344人	15回/150人	受入中止

## (2) 資料の収集

当館では、精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教及び歴史の専門的資料に重点を置いた収集を行うと共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備することを方針としています。

令和5年度は、新たに1130冊(点)の図書を収集・整備し、OPACで公開しました(表-8「受入図書実績」参照)。うち88冊は、「やさしく読める心の本コーナー」(子ども向け精神文化図書コーナー)として配架しました。

<表-8「受入図書実績」>

	令和5年度			令和4年度		
	購入	寄贈	(小計)	購入	寄贈	(小計)
閉架図書	18	287	305	15	166	181
開架図書	533	288	821	543	175	718
(小計)	551	575	1126	558	341	899



AV	0	4	4	0	4	4
(合計)	551	579	1130	558	345	903

令和5年度末蔵書冊数：図書・AV資料総数：108,992冊・点  
(閉架書庫83,944冊・開架図書24,858冊・AV資料229点)

### (3) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

#### ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

当館の貴重コレクションは、23種約40,000冊に、研究所沿革史資料(約130,000点)を加えた24種類に及びます。これらの資料の大半は他館に書誌情報がないため、独自に書誌情報のデータ化を進めており、前年度までに、17コレクションのOPAC検索が可能となっています(部分公開のコレクションを含む)。

令和5年度は、次に掲げる3つの事業を実施しました。

##### ① 「大倉邦彦旧蔵文庫」の書誌データOPAC公開と未整理資料のデータ整備

研究所創立90年を迎えた令和4年4月に、大倉邦彦旧蔵文庫(約3,000冊)の書誌データをOPAC公開しました。また、令和3年度から開始した、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データの整備を継続して進めました。(第2期5年計画の3年次目)

##### ② 新規コレクションの書誌データ整備

令和5年度は、岩波茂雄寄贈書、葛巻常四郎寄贈書、松井等旧蔵文庫の書誌データ整備を進めました。

##### ③ 「研究所沿革史資料」の書誌データのOPAC公開

研究所沿革史資料の書誌データは、352点を公開し、総データ数は62,919件となりました(前掲、3頁「1(3)エ「研究所沿革史資料目録OPAC公開」参照)。

#### イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名といった最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を継続的に進めています。

令和5年度は、閉架書庫内に残る簡易書誌データのうち、3,558冊の詳細化を行いました(10年計画の7年次目)。

#### ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料は司書によるデジタル撮影を行っています。

令和5年度は、大学・研究機関・研究者等からの複写依頼を受け、貴重コレクションの名古屋大周寺文庫『しゅりやうごんきやうじよごう首楞嚴經助講』、『えんかくきやうじよごう円覚経助講』、金沢甚衛旧蔵資料『みんかんふうど民間風土景況上陳書』、『じんしんばいばいせい人身売買制禁二付遊女等解放ノ布達』等、5件261枚の撮影を行いました。

#### エ 資料の保全

当館の貴重コレクションは、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことは当館の重要な役割の一つです。

#### ① 書庫内環境の整備

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではないため、書庫内換気のサーキュレーター稼働、防虫のための粘着マット使用、ホコリ・カビの除去作業等により、資料の保全に適した書庫内環境の整備を年間通して行いました。

#### ② 和装本の保存箱作成

ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、大名榊原家文庫184個(累計1,790個)の保存箱を作成しました。また、令和5年度は、保存箱作成と配架作業を専門業者にも委託し、270個(535冊)の保存箱作成・配架を実施しました。

### (4) 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

図書館情報管理システム「情報館」は、前回の機器更新から5年が経過しましたので、今後の安定的な運用のため、5月に機器更新を実施しました。

#### ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が求められています。質問や相談内容によっては、研究員とも連携し、利用者のニーズに応えるレファレンスサービスの提供に努め、令和5年度は119件のレファレンスに対応しました。また、他機関との情報交換、連携を深め、情報提供能力の向上を図りました。

令和5年度は、横浜市歴史博物館と横浜ユーラシア文化館から職員4名が来館し、当館の見学と情報交換等を行いました。

#### イ インターネットの活用

当館では、利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧・複写申込等、図書館サービスの提供にインターネットを活用しています。

令和5年度も利用者が必要とする図書館サービスの利便性の向上を図りました。

### (5) 利用促進のための広報活動

#### ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめた利用案内リーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行っています。令和5年度は、改訂版を2,000部発行しました。また、子どもたちの利用促進を目的としたリーフレットを作成し、夏休み前に近隣の小学校5校に配布しました。

#### イ ホームページでの情報発信

HP上で新着本・おすすめ本の紹介を毎月2回掲載し、年間を通して資料展示・催し物の案内を随時更新して、情報発信を行いました。

#### ウ 所蔵資料の紹介展示

【図書館資料展—テーマ展示—】

令和5年度は、貴重コレクションを主な展示品とする「図書館資料展」を計5回開催しました(表-9「図書館資料展」参照)。このうち第37回は、タゴール月間記念展示、第38回は、夏休み向けに、児童関連資料を展示しました。

<表-9「図書館資料展」(第1閲覧室内展示ケース・入口展示ケースに展示)>

	タイトル	期間	入場者数
第36回	資料保存を支える 箱作りボランティア (ボランティアの作品や作業の様子を紹介)	2月2日~4月29日	234人 (4/1~)
第37回	インドの詩聖 ラビンドラナート・タゴール ノーベル文学賞受賞110周年を迎えて (「詩」に焦点を当てて所蔵資料の紹介)	5月2日~7月21日	863人
第38回	こんな資料もあるよ♥カルタ/絵葉書/教科書 (普段目にする事のない資料の紹介)	7月22日~9月29日	761人
第39回	大倉邦彦のSDGs (大倉の社会貢献活動とSDGsの関連を沿革史料から紹介)	9月30日~12月23日	1,123人
第40回	紫式部—江戸、明治、大正資料の中の紫式部 (大河ドラマで注目される「紫式部」をテーマに関連図書を紹介)	1月5日~3月30日	1,748人

【図書館ミニ展示会—イベント関連展示等—】

当館では、図書館ミニ展示会として、当財団が開催する大倉山講演会その他のイベント(前掲、1~4頁「1 精神文化の研究およびその成果の普及」参照)の広報や、参加者が内容理解を深めることを目的に、閲覧室の小スペースを利用した関連図書の展示を行いました。図書館ミニ展示会は、身近なテーマの資料展示を含め、計8回開催しました(表-10「図書館ミニ展示会」参照)。

展示した資料はどれも貸出可能としており、多くの利用がありました。

<表-10「図書館ミニ展示会」(第1閲覧室内に展示) ※印はイベント関連展示>

	タイトル	期間	入場者数
第40回 ※	図書館で学ぶ豊かな心 「親切第一」を掲げた企業家、星一 (4月15日開催の大倉山講演会「「親切第一」を掲げた企業家、星一」にあわせて、星一及び実業家の教育理念関連資料展示)	3月23日~4月28日	357人 (4/1~28)
第41回 ※	図書館で学ぶ豊かな心 黒澤貞次郎 (5月20日開催の講演会「黒澤貞次郎」にあわせて、図書館所蔵の黒澤貞次郎及び通信事業、理想の田園都市「吾等が村」関連資料を紹介)	5月9日~6月6日	287人
第42回 ※	図書館で学ぶ豊かな心 土光敏夫の社会貢献活動 (6月17日開催の講演会「土光敏夫の社会貢献活動」にあわせて、図書館所蔵の土光敏夫及び実業家の社会貢献活動関連資料等を紹介)	6月6日~7月8日	362人
第43回	図書館で学ぶ豊かな心 牧野富太郎と草花に親しむ (草花とともに歩んだ博士の人生を知るとともに、身近な草花への関心を持っていただけるように関連図書を紹介)	7月11日~9月16日	693人
第44回	図書館で学ぶ豊かな心 古文書を学ぶ (秋の芸術祭で図書館が開催するワークショップ関連資料の紹介)	9月20日~11月8日	686人

第45回 ※	図書館で学ぶ豊かな心 岡倉天心とインド (11月25日開催の講演会「岡倉天心とインド」にあわせて、図書館所蔵の岡倉天心関連資料の紹介)	11月10日～12月27日	563人
第46回	図書館で学ぶ豊かな心 紫式部の生涯を知る (大河ドラマで注目される「紫式部」をテーマに関連図書を紹介)	1月4日～2月29日	1,403人
第47回 ※	図書館で学ぶ豊かな心 日本のロータリークラブ創設者米山梅吉ものがたり～奉仕の心で社会を拓く～ (3月16日開催の講演会「日本のロータリークラブ創設者米山梅吉ものがたり～奉仕の心で社会を拓く～」にあわせて関連図書を紹介)	3月1日～3月30日	340人

### 【タゴール月間記念展示】

インドの詩聖タゴールの誕生月と、昭和4年来日時の大倉邦彦邸宿泊が5月であったことから、当財団では毎年5月をタゴール月間として、関連資料の展示を行っています。

令和5年度は、ラビンドラナート・タゴールのノーベル文学賞受賞110周年を記念し、「詩」に焦点を当てて所蔵資料の紹介する展示を行いました。(表-9「図書館資料展」参照)

### エ 大倉山秋の芸術祭

近隣の住民が集う大倉山秋の芸術祭では、「道歌を読む～変体仮名を学びながら歌の思い(心)に触れる～」と題して、附属図書館所蔵の「道歌コレクション」を題材に研究員によるワークショップを開催しました。また、関連資料の展示も行いました(表-10「図書館ミニ展示会」参照)。

開催期間中の11月3日(金・祝日)と11月5日(日)は臨時開館も実施し、来館者へは当館の蔵書印を散りばめたブックカバーを配布しました。

図書館の入口には除籍本等による「リユース文庫」を設置し、読書活動推進と新規利用者の獲得に向けたPRも行いました(別紙、「附属明細書」4頁参照)。

### オ 図書館総合展

図書館総合展は、毎年全国の図書館や関連企業・団体が参加する図書館業界最大規模の催しで、令和5年度はメイン会場・サテライト会場・オンラインによる3形式での開催となりました。当館は11月1日から30日までサテライト会場として参加し、自由見学者の受け入れを実施しました。

また、図書館情報管理システム開発会社である株式会社ブレインテックの依頼による図書館見学会を開催した他、メイン会場で開催された同社製品のユーザー研究会に研究員がゲストスピーカーとして参加し、事例報告を行いました。

### カ 外部機関との連携

- ① 7月22日～10月31日、NPO法人鶴見川流域ネットワーク主催の「バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー」に、スタンプとシートの設置場所として協力しました。
- ② 7月27日～29日、夏休み子ども向けイベントとして「3日間限定！オリジナルのブックカバーを作ろう！」を開催し、夏休み前には近隣小学校へ依頼して、案内リーフレットを配布しました(参加者17名並びに新規利用登録者10名、一部再掲10頁「3(5)ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行」参照)。
- ③ 9月10日、大倉山記念館指定管理者との共催による「大倉山記念館オープンデー」で臨時開館を実施し、『南総里見八犬伝』と和装本の植物画展』を行いました。(来館者96名)

- ④ 12月10日、大倉山子どもフェスティバル実行委員会主催の「第39回小さな丘のメリークリスマス」に合わせて臨時開館を実施し、子ども向けのワークショップやリユース本の提供を行いました(来館者85名、ワークショップ参加者21組、別紙「附属明細書」4頁参照)。
- ⑤ 2月23日、24日、大倉山観梅会実行委員会主催の「第36回大倉山観梅会」に合わせて臨時開館を実施し、浮世絵の展示を行いました。(来館者23日86名、24日414名、計500名)